

都心部における非日常型森のようちえん ～ノッツ森のようちえん “のあそびくらぶ”

NPO 法人国際自然大学校（東京都）

<http://www.nots.gr.jp>

取組の目的・背景・沿革等

🌿 地域の環境や状況

東京都狛江市を流れる多摩川は、一級河川でありながら、護岸化されていないところが多く、川辺の生き物、河川敷の野草が多くあり、野鳥も見られる自然豊かな場所である。一方で、台風の被害や公害による水質汚染の歴史も持つこの場所は、環境教育的視点で子どもたちに伝えられる教材が数多くある。「子どもたちにとって、遊びの原風景になってほしい」、「自分たちの故郷を守る気持ちを育ててほしい」という思いと共に、子どもたちの自由な発想をベースに展開される「遊び」や直接体験を重視する考え方にに基づき、活動をスタートさせた。

🌿 取組の経緯・背景・理念等

「何か道具がなければ遊べない。外での遊び方が分からない。そもそも遊べる場所がない。ゆえに子どもたちの遊ぶ力が発揮されない」、そのようなことが言われて久しい昨今、「子どもたちの自由な発想で」、「豊かな想像力から遊びを作り出す創造力を引き出し」、「自分を取り巻く自然環境、友だち関係等から様々な気付きを得て」、「そこで一緒に過ごす友だちやスタッフとの関係性を築く」力を発揮できる場所を作り、提供することで、子どもたちの能力が開花することを目指し、継続的に行っている。

取組の概要

🌿 取組の内容

2歳～未就園児を対象とした「おさんぼくらぶ」、3歳～未就学児を対象とした「のあそびくらぶ」は、水曜日を中心に各活動2時間程度、子どもだけの参加で実施している。また、「のあそびくらぶ1Day」と称し、1日6時間の活動を行うプログラムは、3歳～小2を対象とし、よりダイナミックに、より深く、とことん遊べる活動を展開している。いずれの活動も、その都度申込みを受けているため、常に新しい関係づくりが展開される。一方でリピーターも存在するため、遊びや関係づくりの潤滑油となっている。



🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

基本的には、子どもたちの自由な発想で作られていく遊びを中心に活動を行っている。「多摩

川」という活動エリアの性質として、水辺での遊び（水遊び、釣りもどき）、土手滑り、石堀、石集め、石投げ、生き物採集（季節に応じた生き物）等が主たる遊びとして展開されるが、広場ではかけっこ、ひみつ基地作り、ごっこ遊び、木登り等も展開されている。子どもの数だけ、遊びが行われている状況である。「豊かな想像力から、遊びを作り出す創造力を引き出し」、「自分を取り巻く自然環境、友だち関係等から様々な気付きを見だし」、「そこで一緒に過ごす友だちやスタッフとの関係性を築く」ことを大切にしているため、特別な仕掛けはしていない。ただし、「遊びのきっかけ」として、例えば虫かご、虫網等を準備し、バケツやスコップなどの素材を提供するなど、「遊びの始め」だけ手伝い、促すことはある。その後、関わるスタッフ（職員やボランティア）は、子どもたちの発想の下で展開される遊びに寄り添い、共に活動し、共感しながら過ごしている。安全管理については、屋外である以上、自然体験活動の経験ある指導者（職員）がしっかり行うと同時に、子どもたちにもセーフティトークとしてリスクへの意識を持ってもらう声掛けを行っている。さらに、学生や社会人ボランティア（キャンプスタッフと呼称）にも協力してもらい、安心安全なプログラム運営に配慮している。

実施体制について

自然体験活動従事者である、自然学校の職員を責任者（ディレクター）とし、フォローの職員1名及びキャンプスタッフを、参加者数に応じて配置している。

自然学校職員は、下見、地形的なこと・危険な動植物・都市部ならではの危険等のリスクの洗い出し、運営マニュアルの作成、応急手当研修等をその都度行い、キャンプスタッフには、定期的な勉強会（自然に関する安全管理、子どもの発達段階について等）を行っている。

安全性への配慮

関わる職員・キャンプスタッフがリスクマネジメントを行い、事業運営に臨むのはもちろんのこと、参加する子どもたち自身にも、自分の身は自分で守ることを意識し、身に付けてもらうために、活動前に必ず「セーフティトーク」を行っている。

地域機関・団体との連携

広報の部分で、市政だよりのようなものに掲載してもらうことがあるが、それ以外では特に行っていない。

取組による効果

子供・保護者への影響

継続的に「森のようちえん」に参加している子どもたちは、危険回避能力が上がっているように感じる。また、身体的バランスが良いため、木登りや土手滑り、水辺での活動に安定感がある。さらに、初めての参加者を遊びに巻き込む力がある。未就園で参加していた子（2歳～3歳）は、年間で企画実施している当自然学校のキャンプ活動に参加するといった、体験活動のステップアップをしていく姿がある（年少児は自由遊びで遊ぶ力を発揮し、年長児以降は社会性を重視したグループ活動や野外スキルを学び得ていくプログラムで、協調性等を学んでいく）。

取組を通じて全体的な所感

子どもたちの生活の中に、「目いっぱい夢中になって遊べ、自分らしくいられる場所と環境と関係＝居場所」があることが重要だと考える。また様々な関わりを通して、思いやりや優しさを育み、友達と一緒に何かをする楽しさを知ってもらえれば、どんな困難にも負けない心と体を作っていけると感じている。森のようちえんがそんな役割を担う場であると信じている。